

可燃ごみの減量Ⅱ処理費用の減額 さらなる分別意識の向上を

Q 可燃ごみ処理費用の減額に向けた取組の推進や、住民等へのアプローチは。

A 令和4年度から、小川地区衛生組合として可燃ごみ処理を民間に委託しています。「ごみの減量は比例して処理費用の削減につながる」と、今後も地域への出前講座や生ごみ処理機への導入補助など、分別意識の向上や生ごみの減量化（乾燥させる等）について啓発していきます。なお、令和4年度の可燃ごみの量は「前年度比で4%削減され、処理費用も約1000万円の削減」が図られました。

このところ、雑がみや衣類の分別が意識されてきています。生ごみの水切りは、我が家ではネットを使っています。



最初の一步は
分別

環境美化推進委員
駒崎秋男さん
(東小川6丁目)

高齢者保健と介護予防

Q 令和4年度から取組が始まった「高齢者保健・介護予防一体的推進事業」の成果等は。

A 本事業の目的は「自宅で自立した生活が送れる高齢者の増加」で、生活習慣病の重症化予防とフレイル対策の推進を目標としています。

取組内容は1つ目に「個別的支援」として、健診結果のデータをもとに「低栄養」と「健康状態不明者」に対するアウトリーチ支援や、医療専門職による訪問・個別相談で保健指導を行いました。2つ目に「集団を対象とした支援」として「いきいき百歳体操」や「はつらつクラブ」の参加者を対象に「栄養」をテーマとした健康教育を行いました。いずれも、健康長寿に結びつけていく目的を見据えた取組がなつたと捉えています。

景観モデル地区の案内標識

Q 案内標識設置の効果等は。

A 令和4年度はモデル地区内の主要ポイント15か所に整備し、全体で27か所に設置されています。また、関連のガイドブック等にも掲載し、周知を図っています。標識には二次元バーコードが配され、ポイントごとに情報が表示される仕組みとなっております。今回の追加設置により、アクセス数も以前と比べて3倍（64回↓198回）と増えています。



観光やまち歩き等の来訪者はもちろんのこと、町民の皆さんにも広く利用されることを期待しています。



まち歩きマップ
小川町HP

二次元バーコードから「まち歩きマップ」が見られます



増加する空き家への対策

Q 「お試し暮らし体験住宅」の実績等は。

A 寄附された空き家一棟（件）を改修し、移住希望者に対して町内での生活を一定期間体験できる機会を提供しています。以前、入居していた夫婦は定住につながり、その後、現在は子育て世代の家族が利用し、小川町暮らしを体験しています。改修費用などの課題もありますが、今後も寄附物件を募り、体験住宅を増やしていけたらと考えています。

空き店舗の解消を

Q 空き店舗の利活用につながる各種補助金の動向は。

A 令和4年度はまだコロナ禍もあり、店舗の改修・家賃補助の実績は2件に留まりました。一方で、令和5年度には、補助対象エリアの拡大と補助の増額を図る中で4件（令和5年11月15日時点）の実績を有し、着実に空き店舗の活用へとつながってきていると捉えています。

歯科口腔保健の推進

Q 推進や啓発につながる取組は。

A 平成30年度に制定した「歯科口腔保健の推進に関する条例」に基づき、その保持・増進に努めてきました。正しい歯磨き習慣を身につけることで、虫歯や歯周病予防につながることは言うまでもなく、「歯及び口腔内の健康が全身状態」に対しても影響を及ぼすこと」の情報発信に取り組んできました。また、自殺予防対策事業の啓発グッズを歯ブラシに変更したり、一人暮らし高齢者調査の時に歯ブラシの配布を実施したりしています。



フレイル予防応援ポータル 埼玉県HP

町民の歯科口腔を守るために配られているケアグッズ。「健康」に関する事業に限らず様々な機会・イベントを通じて促進に努めています。

地域福祉委員の増員

Q 担い手の現状等は。

A 平成28年度の12地区41人の設置を皮切りに、令和4年度末では55地区156人となり、委嘱人数は順調に増えています。また、民生・児童委員を経験した方に地域福祉委員を引き受けてもらうケースが多くなっています。登録人数の増加が地域の課題解決や地域福祉の推進につながると考えていますので、今後も未設置地区にその必要性を理解してもらえ、るように働きかけていきます。



「少しでも地域のお役に立てれば」と思って活動しています。

地域のお役に

地域福祉委員（腰二）
山神正弘さん（左）
馬場美知子さん（右）